

大阪医療センターをご利用くださる先生方へ

# Osaka National Hospital

# News



独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターニュース

No. 74

令和4年1月

このニュースは、年4回、  
大阪医療センターの最新情報をお届けいたします。  
詳しいお問い合わせは  
地域医療連携室までお寄せください。



## 目次

### 地域医療連携室より

- ・ 新任及び退職医師のお知らせ ..... 2
- ・ 講演会のご案内 ..... 2

### 病院のトピックス

- ・ 緩和ケア研修を受講して ..... 3
- ・ ICLS講習会を受講して ..... 4
- ・ 薬剤部紹介 ..... 5
- ・ 脳卒中・循環器疾患におけるホットラインのご案内 ..... 12
- ・ NHO PRESS ～国立病院機構通信～について ..... 12
- ・ がん相談支援センターのご案内 ..... 13

独立行政法人 国立病院機構 **大阪医療センター**

**地域医療連携室** 令和4年1月発行 74号

〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14

TEL.06-6946-3516

☎ 0120-694-635

FAX.06-6946-3517

[HP] <https://osaka.hosp.go.jp>

[E-mail] [408-comonh@mail.hosp.go.jp](mailto:408-comonh@mail.hosp.go.jp)

# ～ 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの理念～

私たち、独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの職員は、

- 1、医療に係わるあらゆる人々の人権を尊重します。
- 2、透明性と質の高い医療を、分け隔て無く情熱をもって提供します。
- 3、医学の発展に貢献するとともに良き医療人の育成に努めます。
- 4、常に向上心をもって職務に専念し、健全な病院運営に寄与します。

## ～理念に基づいた病院の基本方針～

—— 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの診療・研究・教育方針 ——

### 1) 政策医療の推進

- ・基幹医療施設としての「がん」「心・大血管疾患」「脳卒中」「糖尿病」等、高度総合医療の実施
- ・HIV/AIDS先端医療の推進（近畿ブロック拠点病院）
- ・3次救急医療と災害医療の推進（西日本災害医療センター）
- ・専門医療と総合診療の充実
- ・医療機関の機能分担の推進と地域医療への貢献（地域医療支援病院）



### 2) 高度先進医療への貢献

- ・技術開発：先進的医療の基盤となる技術の研究開発とその臨床応用の確立
- ・臨床研究：病因の解明、診療治療法の開発等その臨床並びにその基礎となる研究の実施
- ・臨床試験の推進：治験を含む臨床試験の円滑な実施とその管理・支援

### 3) レベルの高い医療人を育成

- ・卒前教育：医療系教育施設と連携した教育活動と実習生の受入
- ・卒後研修：初期臨床研修医及び後期臨床研修医（専修医）等、卒後の医療技術者の育成
- ・専門職の育成

### 4) 情報開示と情報発信

- ・透明性を保った情報の開示・発信

## 新任及び退職医師のお知らせ

### 新任医師

異動年月	職名	氏名	異動内容
R3.10.1	乳腺外科科長	八十島宏行	昇任
R3.10.1	感染症内科科長	渡邊 大	昇任
R3.10.1	医師（整形外科）	安田 直弘	採用
R3.10.1	専攻医（形成外科）	名和 沙織	採用
R3.11.1	専攻医（糖尿病内科）	是近 彩香	採用
R3.11.1	専攻医（眼科）	西垣 誠士	採用
R3.12.1	専攻医（外科）	佐井 佳世	採用
R3.12.1	専攻医（糖尿病内科）	河本 佐季	採用
R3.12.19	専攻医（消化器内科）	西本 奈穂	採用

### 退職医師

異動年月	職名	氏名	異動内容
R3.10.10	専攻医（糖尿病内科）	岩崎莉佳子	退職
R3.10.21	医師（乳腺外科）	岡田公美子	育休
R3.10.31	医師（眼科）	河 共美	退職
R3.11.30	専攻医（外科）	東山 智彦	退職
R3.12.18	専攻医（消化器内科）	西本 奈穂	退職
R3.12.31	医師（整形外科）	名倉 温雄	退職
R3.12.31	専攻医（消化器内科）	三好 真央	退職

## 講演会のご案内

開催日時	件名	内容	対象者
令和4年2月19日(土)	第54回法円坂地域フォーラム	テーマ：～放射線診断と治療の現状～ 『肺塞栓発症後、経胸壁心エコー図にて右房内に浮遊する血栓像を認めたと一例』 『放射線科の紹介』 『知症における画像診断の役割』 『見落とさない胸部画像診断』 『我が国の放射線治療の現状』	医師及び医療従事者 ※オンライン開催

**開催場所** 大阪医療センター 緊急災害医療棟3階講堂 **アクセス** 地下鉄谷町線・中央線「谷町4丁目」駅⑩号出口すぐ

**問合せ** 地域医療連携室（電話：06-6946-3516）





## 緩和ケア研修を受講して



国立病院機構 大阪医療センター 研修医 1 年目 竹内 太郎

当院では緩和ケア研修を毎年実施しており、通常であれば地域医療機関の方にもご参加して頂いております。しかしながら、今年度は新型コロナウイルスの感染防止に配慮し、当院の職員のみでの実施とさせて頂きました。来年度の開催については詳細が決まり次第ご案内いたします。さて、下記は当院研修医が緩和ケア研修を通じての感想となります。ぜひご覧ください。

はじめに、コロナ禍の中、緩和ケア研修会でご指導いただいた講師の先生方、ファシリテーターの皆様、ならびに運営に携わってくださった全ての方々にこの場を借りて感謝申し上げます。

私は将来循環器内科を専攻しようと考えています。循環器領域の緩和ケアはがん領域と比べて依然としてエビデンスが乏しいのが現状であり、緩和ケアについての理解を深めたいと考え、今回の研修会に参加させていただきました。

前半の講義では、痛みの種類、評価、鎮痛薬の使い方など、緩和ケアに関する知識を詳しくご講義いただきました。

これまで初期研修において、がんを扱う診療科をローテートした際に、実際ががん疼痛治療に関わる機会がありましたが、緩和ケアについて系統的に学ぶ機会がこれまでなかったため、実際にどのように痛みを評価したり、疼痛コントロールを行ったりしていけばよいのか、難渋したことがありました。



今後、日常臨床の中で同じような場面に直面した際、今回の研修会で学んだことを活かしていきたいと考えています。

後半は、実際の症例をもとにグループワークを通じてディスカッションしていただきました。

様々な職種の方々とディスカッションを行うことのできる機会はなかなかありません。自分と違う職種の方々の緩和ケアに対する考え方を知ることができ、大変参考になりました。

今回の研修会で強調されていたように、緩和ケアは決して終末期のものだけではなく、早期から緩和ケアを導入することで予後が改善することが期待されます。

そのためには、身体的苦痛、社会的苦痛、精神的苦痛といった全人的苦痛を的確に評価し、介入していくことが重要となります。

また、患者さんを支援するためには、医師だけでなく様々な職種の方と協力しながら進めていくことがとても重要だと感じました。

今回の研修会で得た知識や経験を、今後の日常臨床に活かしていきたいと考えています。





## ICLS講習会を受講して



国立病院機構 大阪医療センター 臨床工学室

当院では、様々な講習を実施しておりますがその中から、ICLS講習についてご紹介させていただきます。下記はICLS講習を受講した臨床工学技士の感想となり実際に体験したことで感じたことを書いております。

この度は「ICLS講習会に参加して」ということですが、お恥ずかしい話ですが、今までBLSなど救命処置に携わったこともなければ、勉強したこともありませんでした。そんな何もわかっていない私ですが、このままでは医療者としてダメだと思い参加に至りました。

今回の講習会でICLSに関する必要な知識を学び、貴重な実践をすることができました。

内容としてはビデオを見ながら各内容を実践していきました。シミュレーターの人形を用いて胸骨圧迫やバックバルブマスクの使用、気管挿管を行いました。



胸骨圧迫では2分間ぶっ通しで行い、へっへっになってしまい、自分の体力のなさを痛感したと



共に日頃から携わっている先生や看護師さん、救急隊の方などの凄さ大変さを身をもって感じました。その後バックバルブマスクの使い方や気管挿管について学び、実践しました。

バックバルブマスクは今まで使ったことがなく、気管挿管なんて当然行ったことがなかったので、個人的にとってもおもしろかったです。

後半は受講者全員でグループを作り各シナリオに取り組みました。

リーダーや記録者といった形で役割分担して行いましたが、それぞれの難しさを実感しました。特にリーダーでは視野を広く持ち即座に判断を出していく必要がありましたが、多数のことが同時に行われていることもあり、指示の抜けが多くありました。

私のような、一点ばかり見てしまう人間には、これらをスムーズに行えるということは、神業のように見えました。

今回はとても貴重な機会で、学び得たことはいつ何時でも使えないといけなく強く感じました。しかし、いざそのような場になったときスムーズに動けるかという、自信がないのが率直な気持ちです。そのため今後も可能な限りこの講習会に参加したいなと思いました。

これからも様々な講習を通じて、当院職員のスキルアップをはかれるよう務めます。



# 薬剤部紹介

国立病院機構 大阪医療センター 薬剤部

大阪医療センター薬剤部では、薬剤部長、副薬剤部長2名、主任11名、薬剤師28名、薬剤助手5名の計47名体制で業務にあたっています。薬剤部は外来お薬カウンターのある本館1階、および地下部分の2つのフロア構成となっており、それぞれの場所から所定の薬剤を交付しています。また、当直体制によって24時間365日、薬剤の交付やお薬に関する問い合わせにも対応しており、患者さんが安心して薬物治療に専念できるよう、“正しく、品よく、心をこめて”の3つの言葉をモットーに、微力ながら日々奮闘しております。

薬剤師は従来、薬という“もの”を扱う「対物業務」が中心でしたが、時代の変遷とともに近年では患者さんと直接関わる「対人業務」にシフトしており、有効で安全な薬物治療には不可欠です。病院薬剤師に求められる役割は多岐に渡っており、当院薬剤部の業務についてご紹介します。

## 薬剤部メンバー

- ・ **薬剤部長** : 吉野宗宏
- ・ **副薬剤部長** : 井上敦介、山下大輔
- ・ **主任薬剤師** : 矢倉裕輝、小林恭子、櫛田宏幸、海家亜希子、松尾友香、加藤あい、畑裕基、森祐美子、水津智樹、川上智久、長谷川英利
- ・ **薬剤師** : 宮城和代、福富景子、池田絢、坂本麻衣、池田麗、田中あゆみ、中内崇夫、飯沼公英、長谷部茂、柴野理依子、吉村芙美、江原美里、松本真帆、足立紗知、井後星哉、交久瀬綾香、清水彩加、田中奈桜、山本友佳子、堀田優衣、楢本佳代、吉金鮎美、祝洸太郎、中橋麻友、青野由依、平井優実、岸田啓太郎、堀由布子
- ・ **薬剤助手** : 佐藤句美子、堀井規世、濱崎萌海、明治征子、平山智子

(令和3年11月現在)

## 業 務 紹 介

### ①調剤業務（処方・注射）

入院患者さんおよび一部の外来患者さんを対象に、医師からの処方箋に基づき調剤しています。医師が処方したお薬については、用法・用量・相互作用（飲み合わせ）をコンピューターがチェックした後に、再度薬剤師が確認（処方監査）を行った上で調剤を行います。

院内で取り扱う採用品目は、内用薬・外用薬・注射薬などを含め約1,500種類に及んでいます。

注射調剤については「注射薬自動払出システム」を導入し、ロボットによる調剤も併用しています。これにより、1患者・1施用毎に調剤した薬品を各病棟に払い出すことが可能となり、業務の効率化だけでなく、患者さんに正しい薬剤を届けるという医療安全にも大きく役立っています。





「注射薬自動払出システム」(株式会社 ユヤマ)

また、医療安全への更なる取り組み強化のため、調剤監査支援システムとして、モバイル端末のiPodを利用した装着型バーコードリーダーを導入しています。

薬品バーコードの照合や音声での数量読み上げにより、薬品の取り間違い防止、計数薬品の取り揃えにおける調剤過誤を防止しています。



「調剤監査支援システム」  
(iPod装着型バーコードリーダー)

## ② 製剤業務 (無菌調製業務)

病棟で患者さんに使用する注射薬のうち、抗生剤をはじめ調製後の安定性や力価が一定以上担保できるものについては、薬剤部にて無菌調製し払い出しています。術後鎮痛に使用されるポプスカインポンプも無菌調製しています。

抗がん剤についてはレジメンチェックを行い、無菌調製を行っています。抗がん剤は、一般的にがん細胞だけでなく正常な細胞にも影響を及ぼすため、医療従事者への曝露が懸念されています。そのため、院内で投与される抗がん剤は無菌室内の安全キャビネットにて無菌調製しており、入院・外来併せて1日あたり約50件となっています。安全キャビネットは、クリーンベンチと異なり陰圧排気フィルターが装置奥にあり、調製者が抗がん剤に曝露しない仕組みになっています。

また、揮発性が高いことにより曝露が懸念される抗がん剤については、無菌調製時に閉鎖式薬物移送システム (CSTD) を使用し曝露対策を行っています。これらのことで、調製者だけでなく、搬送するメッセンジャーや投与する看護師の曝露リスクを低減させ、抗がん剤が直接触れることのないよう対策しています。



(左写真) クリーンベンチ

(右写真) 安全キャビネット内での抗がん剤無菌調製

### ③薬品管理業務（薬務）

医薬品の購入および管理を行っており、購入金額は薬価ベースで月約5億円となっています。

薬物治療が円滑に行われるために、医薬品の安定供給は不可欠です。また、昨年から続いている新型コロナウイルス感染症の流行のため、世界的に一部の薬剤の供給が不安定になりました。このような緊急事態の際には、供給可能な製品へ一時的に切り替えを行うこともあり、安定供給できるように努めています。



医薬品の納品における卸MSとの検品



#### ④ 医薬品情報管理業務 (Drug Information : DI業務)

医薬品の適正使用には常に最新の情報が求められるため、医薬品情報管理室にて一元的に収集・管理し、院内の各部署に迅速かつ的確に必要な情報を発信しています。プレアポイド事例、副作用及び有害事象の収集、医療機器の不具合報告、医薬品副作用被害救済制度への支援も積極的に行っています。また、院内で採用し使用する医薬品については、隔月で開催される薬事委員会にて審議、承認を得ることとなり、資料作成などの事務局の役割も担っています。

その他として、ジェネリック医薬品の採用、フォーミュラリーの作成も積極的に推進しています。フォーミュラリーとは、医療機関において患者さんに最も有効で経済的な医薬品の使用方針とされ、欧米を中心に1990年代から導入されている医薬品マネジメントの手法です。利点として、

①標準薬物治療の推進 (ジェネリック医薬品を基準薬) ②医薬品リスク管理の向上 ③採用品目数と医薬品購入費の削減効果 ④DPC制度下での収益向上 ⑤地域包括システムの発展など多面的です。医療の効率化の観点からも、今後さらに必要性が広がっていくものと思われます。



書籍での医薬品情報の収集



製薬会社MRとの面談

#### ⑤ 病棟薬剤業務

入院中および退院の患者さんには、薬剤管理指導を行っています。薬剤の服用意義や副作用の説明を行うことで、アドヒアランス向上や副作用の早期発見による薬物治療の向上に繋がっています。また、当院では「病棟薬剤業務実施加算」を算定しており、病棟に薬剤師が常駐しています。業務内容としては、薬歴の把握、医薬品の安全性情報の把握、患者背景及び持参薬の確認とその評価に基づく処方設計と提案、投与前の相互作用の確認、ハイリスク薬の詳細な説明、流量または投与量の設計 (バンコマイシン等のTDM)、投与ルートの配合変化チェックなど多岐にわたっています。

その他、ポリファーマシーの改善にも取り組んでいます。ポリファーマシーとは、多剤併用により有害事象につながる状態や飲み間違い、残薬の発生につながる問題のことをいいます。さらに、不要な処方や過量重複投与など、あらゆる不適正処方も含まれます。特に高齢者でその傾向が強くなることから、解消に向けた取り組みを行っています。





病棟薬剤師による持参薬確認  
 (入院前の服用状況やアレルギー情報等を聴取し、入院後の薬物治療に繋げている)

## ⑥ 治験薬管理業務

大阪医療センターでは政策医療の一環として多くの治験が実施されています。治験薬管理業務については担当薬剤師を配置しており、薬剤部内に治験薬管理室を設置し以下の業務を行っています。

1. 治験薬の搬入や回収：治験依頼者（製薬会社）からの治験薬搬入や回収に対応し、保存条件に合わせた保管と温度管理
2. モニタリングへの対応：依頼者による治験薬の出納記録・保管状況・必須文書の確認対応など
3. 治験薬調剤：プロトコルを遵守した用法用量等チェック
4. 被験者さんからの治験薬回収：被験者さんから残薬を回収・保管・記録の記載
5. 治験薬のマスター登録およびメンテナンス
6. 管理表などの保管管理文書（管理表・温度管理表・管理手順書など）の整備

治験薬管理業務を標準化する目的は、被験者さんの安全性を向上させ、効率性を高め、強固な臨床データを提供することで、画期的な新薬を必要とする患者さんに届けることです。これらの業務を通じて、「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令」（GCP）の遵守と、質の高い治験の実施のためサポートを行っています。

## ⑦ チーム医療

### (1) HIVチーム薬剤師

HIV感染症患者さんへの服薬支援を強化するため、担当薬剤師を配置し円滑な服薬支援体制を構築しています。感染症内科外来に隣接した「お薬の相談室」を設置し、薬剤師が常駐することで患者さんの動線の改善、医師・看護師との情報の共有化も実践しています。

### (2) 抗菌薬適正使用支援チーム（AST）／感染制御チーム（ICT）薬剤師

AST、ICTに薬剤師を配置し業務を行っています。主な業務としては、院内サーベイランス、バンコマイシンなどの抗菌薬に関する血中濃度解析を行っています。当院での特徴的な業務は、届出対象

の特定広域抗菌薬（抗MRSA薬、カルバペネム系抗菌薬、タゾバクタム/ピペラシリン合剤等）に関して全症例モニタリングを実施しており、医師と協働で不適切使用症例などへの介入を行っています。また、長期使用症例へのカルテ介入も行っています。

### （3）救命救急チーム／災害医療対策本部（DMAT薬剤師）

救命救急センターは3次救急医療の一翼を担っており、入院前薬歴確認、投与设计、ルート管理など薬物療法支援を行っています。

また、災害医療にはDMAT薬剤師として参画しています。直近では、ダイヤモンドプリンセス号や、令和2年7月の熊本豪雨に対し薬剤師を派遣し活動を行いました。

### （4）がん薬物療法チーム／ケアサポートチーム（緩和ケア）薬剤師

外来化学療法室に薬剤師が常駐し、病棟での化学療法と同様に治療法の説明や薬学的ケアの実践を行っています。2020年度診療報酬改定にて「連携充実加算」が新設され、薬剤部では地域の保険薬局薬剤師と連携協働し、質の高い外来がん化学療法を目指しています。

ケアサポートチームは、がん、心不全などの患者さんとそのご家族に支援活動を行う多職種で構成された緩和ケアチームです。薬剤師はチームカンファレンス、全体回診、各病棟でのカンファレンスに参加しています。

### （5）NST薬剤師

NST薬剤師は、栄養不良に繋がる症例により早期から係わり、栄養の改善と在院日数の短縮を目標とし活動しています。

### （6）糖尿病教室

主として入院の糖尿病患者さんを対象に、薬物治療の教育・指導を行っています。

## ⑧ 専門・認定薬剤師の育成、研修受入体制の推進

薬剤部では、薬剤師新人教育、専門・認定薬剤師の育成にも取り組んでいます。また、薬学生長期実務実習生の受け入れも、毎年全期を通じて行っています。

＜日本病院薬剤師会＞

・ HIV感染症薬物療法認定薬剤師研修施設、がん薬物療法認定薬剤師研修施設

＜日本医療薬学会＞

・ 医療薬学専門薬剤師研修施設、がん専門薬剤師研修施設、薬物療法専門薬剤師研修施設

＜日本薬剤師研修センター＞

・ 実務研修生受入登録施設（薬局・病院）

＜日本緩和医療薬学会＞

・ 緩和医療専門薬剤師研修施設



## 薬剤部長からのメッセージ

今年4月に大阪南医療センターより、着任しました吉野宗宏です。

当院では平成6年から平成26年まで20年間勤務していました。今回を合わせると当院で歴代最長勤務記録を更新している薬剤師と自負しています。すでに着任してから半年以上が経過しましたが、知り合いの、医師、看護師、コメディカルの方々が多く、やりがいのある環境で働かせていただいています。

さて、病院薬剤師は、基本業務である調剤・製剤業務に加え、病棟での業務が急速に発展しています。高度化かつ複雑化する医療のなかで、薬剤師はより深く薬物療法に係わることにより、医薬品の適正かつ安全使用に貢献することが求められ、服薬指導、医師への処方提案、最新かつ的確な医薬品情報の提供、薬物療法における治療効果や副作用モニタリング、薬物療法の個別最適化、医療安全確保など業務が拡大しています。一方、コロナ禍で人との接触を極力避けることが求められる中、非対面のリモートワーク、オンライン会議、オンライン診療・服薬指導などが急速に浸透したことで、これまでの働き方やタスクシフティングなど、業務スタイル、そのものが根底から変わる「新しい風」を感じています。薬剤部が一歩ずつ着実に前進できるよう、微力ながら使命を果たしたいと思います。



薬剤部メンバー（調剤室）

## 脳卒中・循環器疾患におけるホットラインのご案内

当院では、主に救急隊からの脳卒中・循環器疾患による患者搬送を受け入れできるよう、脳卒中・循環器ホットラインを設置しておりますが、本ホットラインは救急隊からの要請に限定したものではありません、広く各医療機関様からのご連絡も24時間お受けできる体制を取っています。

貴院かかりつけ患者様あるいは救急搬送された患者様で、脳卒中・心臓・大血管疾患の急変等が起こった際の搬送先として、当院のホットラインをぜひご活用ください。



独立行政法人 国立病院機構  
**大阪医療センター**

〒540-0006 大阪府大阪市中央区法円坂2-1-14 TEL: 06-6942-1331 (代)

循環器ホットライン

**06-6946-3544**

循環器疾患24時間対応します。

脳卒中ホットライン

**06-6946-3543**

脳血管疾患24時間対応します。

医師及び消防局救急隊からの電話に限ります。

## NHO PRESS ~国立病院機構通信~について

大阪医療センターは、国立病院機構（NHO: National Hospital Organization）という141の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構（NHO）という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する『NHO PRESS~国立病院機構通信~』を発行しています。

ホームページに最新号と過去のものを掲載していますので、ぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。



NHO PRESS

検索

QRコード





大阪医療センター

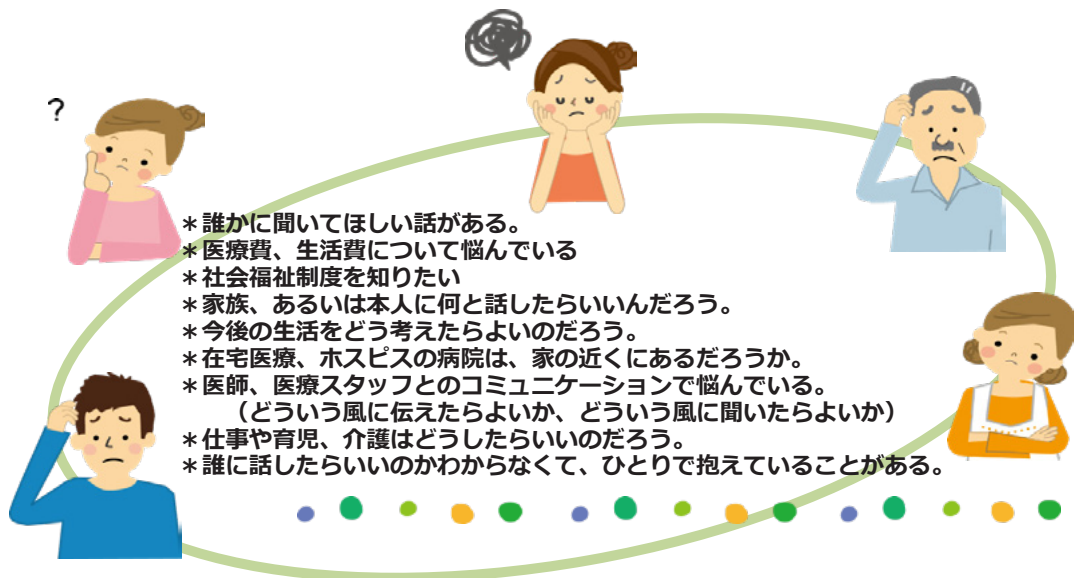
# がん相談支援センター

のご案内



患者さん・ご家族の皆さまが、治療を受けながら考えておられること、生活の中で抱えておられるお気持ち、などお話を聞かせていただくことにより、悩みやお気持ちの整理をお手伝いし、解決の糸口を一緒に考えます。  
お気軽にご利用ください。

相談料は無料で、相談内容における個人情報厳守いたします。  
\* ご入院中の方は、ご希望により、病室までお伺いいたします。



相談にあたっては、患者さんやご家族のお考えやお気持ちを尊重し、できるだけみなさまご自身で問題の解決を図れるよう支援をいたします。

■ 大阪医療センター・がん相談支援センター ■

☎ 06-6942-1331 (代表)

[月曜日～金曜日] 9:00～16:00  
外来休診日はお休みです

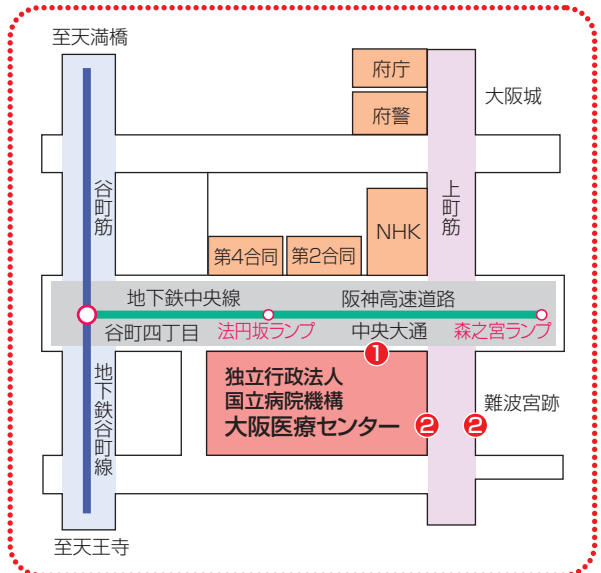
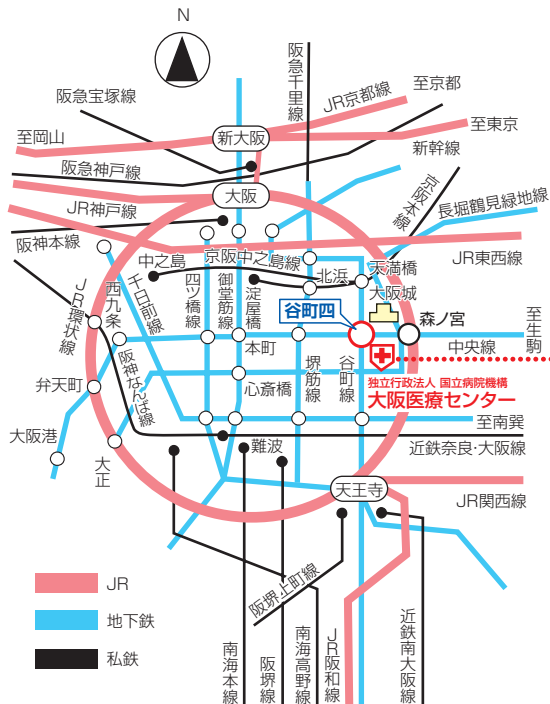
相談対応：看護師・医療ソーシャルワーカー



がん看護相談も  
やってます



## 交通のご案内



① 地下鉄「谷町4丁目」11番出口 ② 市バス「国立病院大阪医療センター」

### ■地下鉄

谷町線・中央線「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

### ■J R

大阪環状線「森ノ宮」駅下車、地下鉄中央線乗り換え「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

### ■バス

市バス「国立病院大阪医療センター」下車

### ■マイカー・タクシー

・阪神高速 13号 東大阪線

▼環状線経由の場合

「法円坂」出口 上町筋を右折すぐ

▼東大阪方面からの場合

「森之宮」出口 中央大通り直進、上町筋を左折すぐ

・上町筋と中央大通りの交差点の南西角

・お車の出入口は上町筋です。